

原子力談話会

第 3 号

「原子力談話会 発行」

— 1954・10・5 印刷 10・10 発行 —

‘利用準備調査会’

総合部会の動き

内閣の利用準備調査会^{の総合部会}は、9月15日に発足した。そのメンバーについて前回お知らせしたのと異なりがあつたので、改めてお知らせします。

石原武男(経審次長)、我妻巖(東大教授)、田中二郎(〃)、
朝永振一郎(教育大教授)、内田俊一(工大総長)、青山秀三郎
(早大教授)、中泉正徳(東大教授)、中芸皎一(資源調査会)、
井上敏夫(日銀副総裁)、久留島秀三郎(同和鉱業社長)、倉田
主税(日立製作所社長)、佐々木義武(経審企画部長)、森永貞
一郎(大蔵省主計局長)、岩武照彦(通産官房長)、駒形作次(工
業技術院長)、稻田清助(文部省大学學術局長)。

第1回の会合は9月15日午後、経審長官官邸で開き、部会長に
石原経審次長が就任し、①原子力の開発体制、②原子力開発計画、③
ウラン資源の法的取扱対策、④放射性物質の取扱方法、を討議した。

第2回は9月24日に開かれ、田中頼次郎氏を招いて口際管理を
めぐる最近の情勢の話を聞いた後、別項のごとき申合せを行った。
これについては色々質問や討議が行われた模様である。

当分は利用準備調査会が開かれず、総合部会が実際の仕事として
行くことになりそうである。

原子力利用準備調査会 総合部会申合せ、 (29.9.24)

我が国における原子力の研究開発を進めるに当つては、平和的利用を根本原則としているので、左記の諸点に留意するものとする。

1. 原子力の研究開発に関しては可及的に公開するよう努めること。
2. 原子力の研究開発に関しては衆知を集めるよう努力すること。
3. 原子力の研究開発に関しては努めて我国の自主性を損わないようにすること。

学術会評 原子力問題委員会

9月27日、原子力問題委員会が開かれた。横割を破つて小椋氏が評長となり、先づ藤岡氏より、内閣の利用準備調査会の総合部会や、産省予算打合会の予算配分大綱(前号参照)について報告があつた。上に記した総合部会の申合せについて、藤岡氏等の努力は次に認めるが、この申し合せは極めて不満足なもので、学術会評の三原則が実現したとは認め難いという意見が多く、これは三原則とは似て非なるものであるとの意見もあつた。予算配分大綱については、どうも專断的なこととはわからないからという意見もかなりあつた。児玉委員からは重水の生産計画は技術的にも危険の多いものではないかとの発言があつた。又岩山委員から、この計画の中には面白いテーマが沢山ある。所が外口から特許を買つてはいかん、売つてはいかん等というのは研究を妨害するだけである。私は三原則には始めから反対だつたと発言した。同委員は海外調査団の派遣についても、私が口会評員なら、口ヒを使つて行つて秘密でないものだけを見てくる等ということには反対すると極めて重要な発言をされた。これに対し渡辺委員から、何政われわれが三原則を言い出したのかということを考えるべきだという発言があつた。

アルバイト おしらせ

某出版社から世界経済研究所を通じて、原子力に関する辞典のようなものをつくりたいから談話会のメンバーに協力してほしいという申し出がありました。決して筋の悪い出版社ではありませんので、自然科学関係の部門を引受けることにしました。(社会科学部門は世界経済研究所が引受けました) 辞典といつても大項目に分けるので、特定の項目について400字数十枚程度にまとめればよいのですが、希望者がありませんでしたらば至急申し出て下さい。原稿は十一月末までに書かないといけませんが、原稿料は1枚毎取350円(内50円は談話会がピンハネの予定)位。

尚今後もこの種の仕事が時々あると思われるので、生活その他の必要からアルバイトを希望される方、或いは文筆活動による啓蒙運動に自信のある方は希望を申し出ておいて下さい。

連絡は 東京都渋谷区幡ヶ谷本町2の350 石田方
大塚 益比古 まで、

新入会員紹介

新しく次の方々加入会を申し込まれました。

氏名	所属	専門	推セン者
斎藤精宏	科研	物理	小林
染田達二	〃	〃	〃
佐々木泰一	東海電極 技研	〃	〃

(4)

電力経済に関する報告

精進から帰って暫くたって、8月26日午後電力経済研究所を訪ねました。その時の顔ぶれは、富永、森、長原、服部、神保、大塚でありました。これはかねてから研究所の方で若い連中の意見もききたいということから、森さんを通じてわれわれに話があり、とにかく行つて見ようということになつたものです。その席には向うは早川事ム局長が出て来て、われわれはかなりはつきりといろいろの批判をしてきました。たとえば例の建設計について、現在の状況下で行うことのもつ影響を考えるべきだというような真、また研究所が中立であるといつてゐるその性格に問題があることなどです。

この席で、今後、とくに原子力発電の基礎となるような問題について人を招いて話をきく会を開き、それにわれわれが出席してはどうかという話が出ました。

われわれは、これは談話会として考えるものではないとし、個人の資格で出席しようということになりました。それはわれわれにとつて、その方面の知識をきくことは有効だと思うからです。

9月16日、初回として、電源開発企画第二課長藤岡信彦氏の「^(日本の)電力の証」をききました。10月5日には初2回として 氏の「電力料金のきめ方」をききました。

この会には、先にあげた連中の他に立花が出席しました。

電力経済にゆきかけてその性格なり活動をかえさせようなどということになれば、これは談話会の仕事として十分討議すべきものと思います。が、現在のところ、それほどわれわれが積極的に動こうとは考えておりません。ただ何と云つても出ている連中は談話会の会員でありますから、こうして皆さんに状況報告をした次第ですが、向うからついてくるヒソを談話会にもちこむようなことは決してしない考えであります。最近、原子力用語集の問題が電力経済から出ているのですが、この用語の問題は、談話会自身にとつて一つの問題であり、会の内部で自主的に行う方針です。勿論会の資金獲得のために通常の商行為で結果を利用することは一応考えてゐるのですが、(大塚記)

尚最近電力経済から、原子力の責任主体の確立についての建設計が出たが、それを20冊ほどくれましたので、参考資料として各地にお送りした次第です。